

がん患者さん看とりのまとめ

(2024年6月～2025年5月)

平和会クリニック診療部 田中千恵

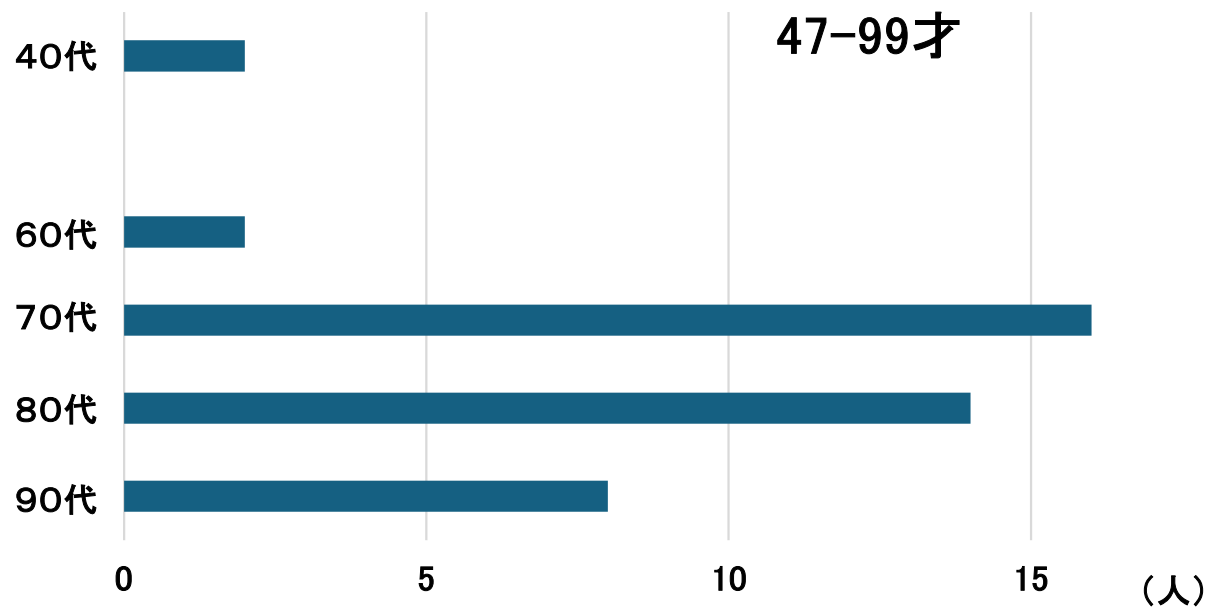
この1年間に平和会クリニックが関わった中で旅立たれたがん患者さん(42名)の振り返りです。

ご自宅、施設で最後まで過ごされた方は64%(昨年は74%)、入院して最後を迎えた方が36%でした。

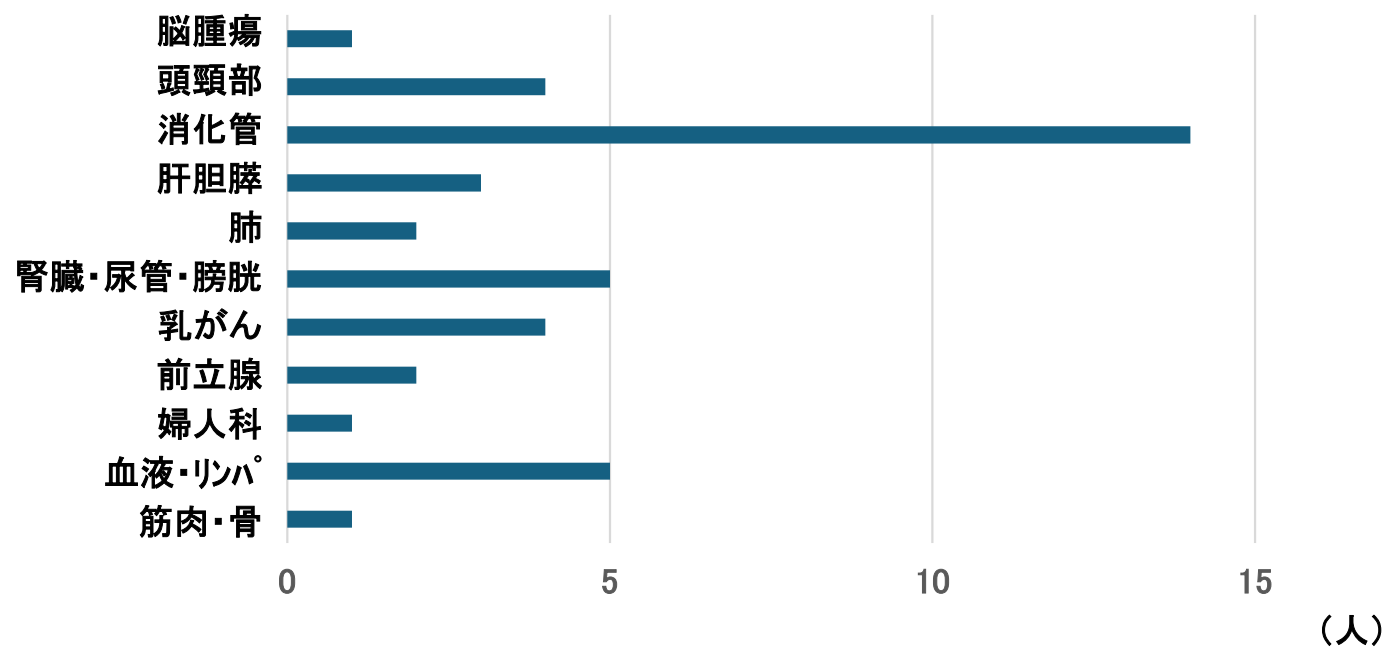
パンデミックはいったん終着しましたが、やはり病院入院中の面会制限あり、家族と一緒に過ごすため治療中断を選択した患者さんが多かった印象です。

入院された方々は、マンパワーなどの点から、ご自宅や施設で過ごすより入院したほうが安心してよりよく過ごせると判断されたケースが大半でした。

私共は日頃から、在宅医療、緩和医療について研鑽をつみ、皆さまのお役に立てますよう、必要時はすぐに後方支援病院に入院のお願いができるよう努めております。事業所内外でICTも利用しながら細やかに連携するだけでなく、多職種カンファレンス、振り返りカンファレンスを行っています。平和会クリニックが主治医の利用者様に関しては緩和ケアチームも活動しておりますので、何かあればどうぞお声がけください。

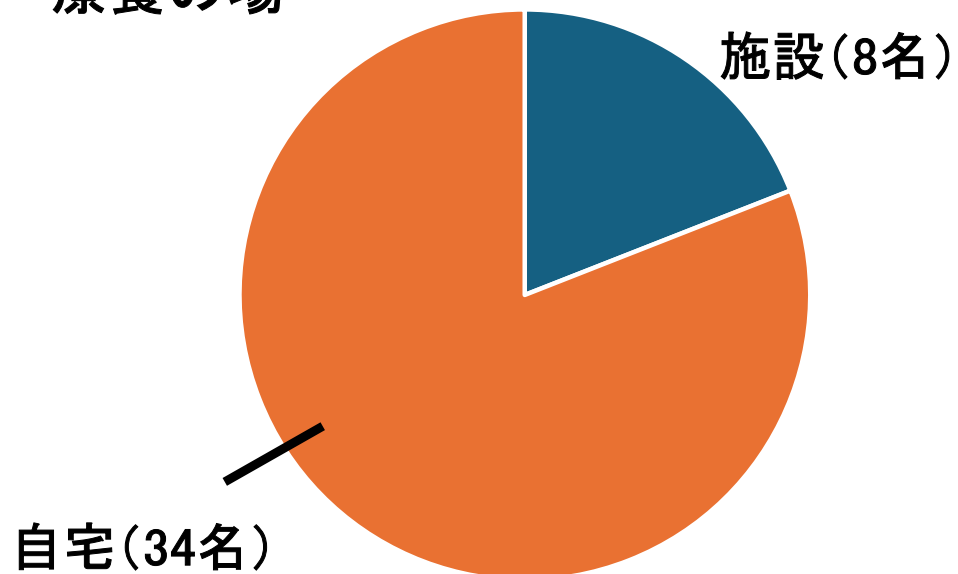


様々な年齢層の患者さんのご依頼をいただいています



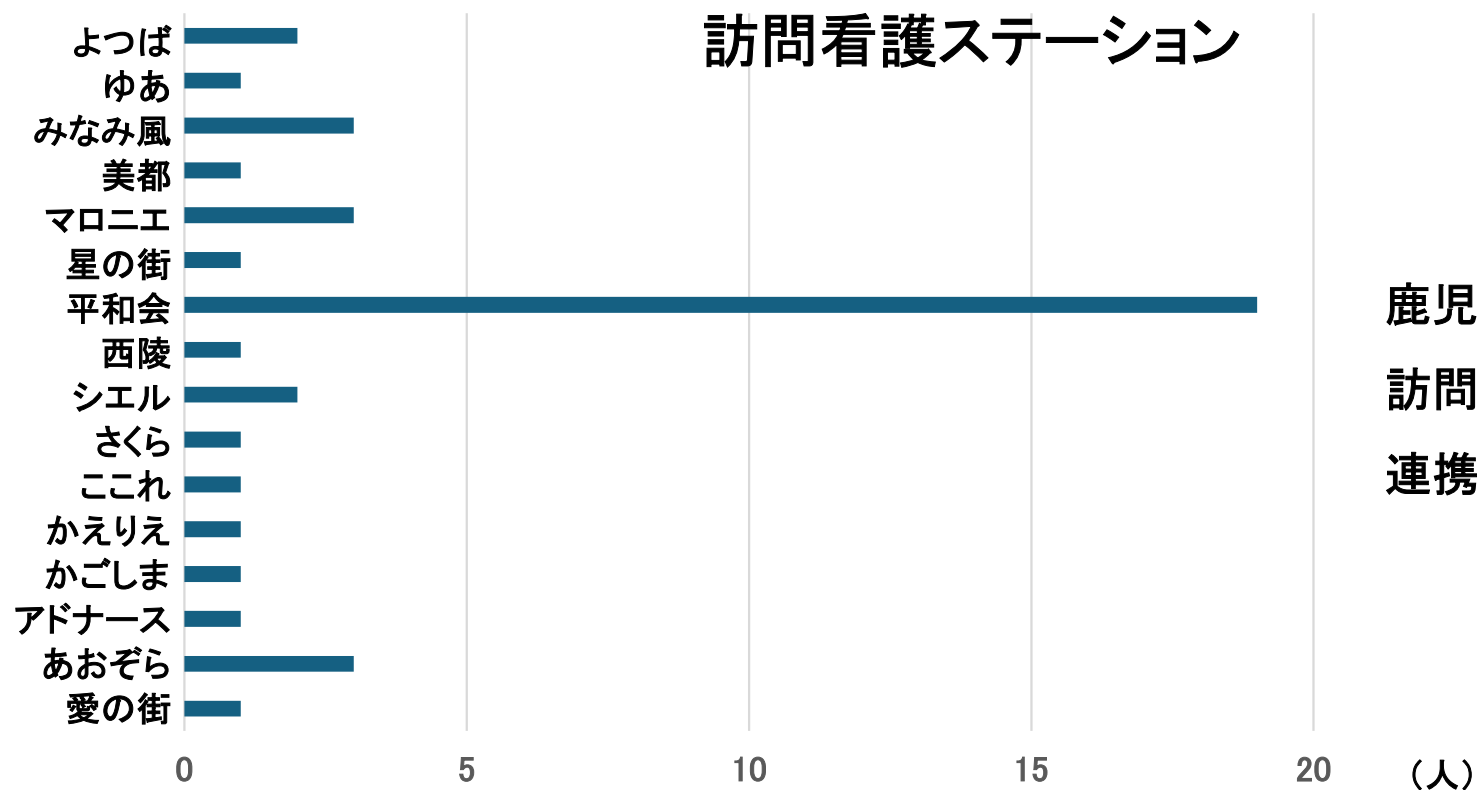
いずれの原発巣であっても対応しています

療養の場



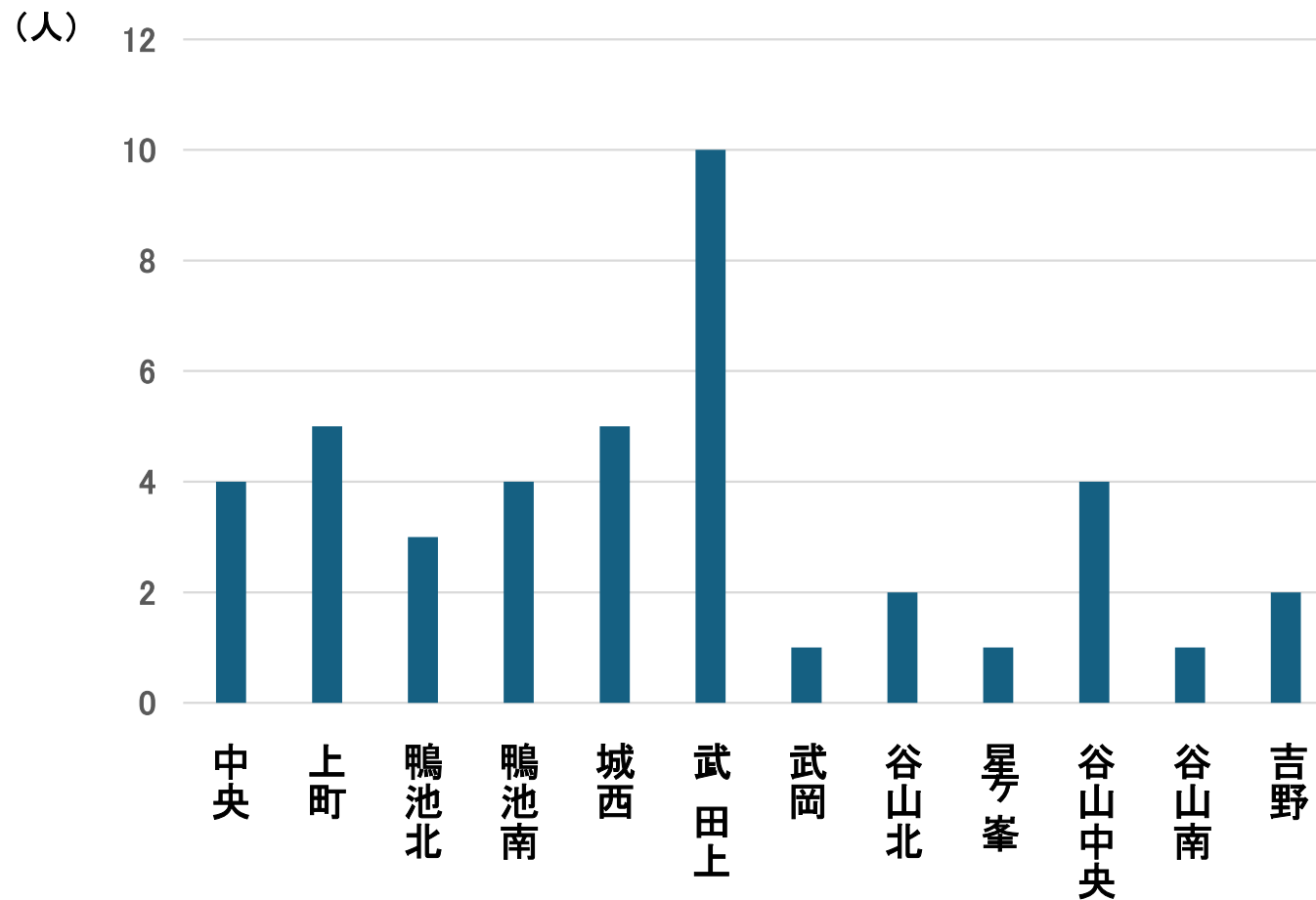
ご自宅で療養されている方、
介入可能な施設で療養されている方の
診察に伺います。

訪問看護ステーション



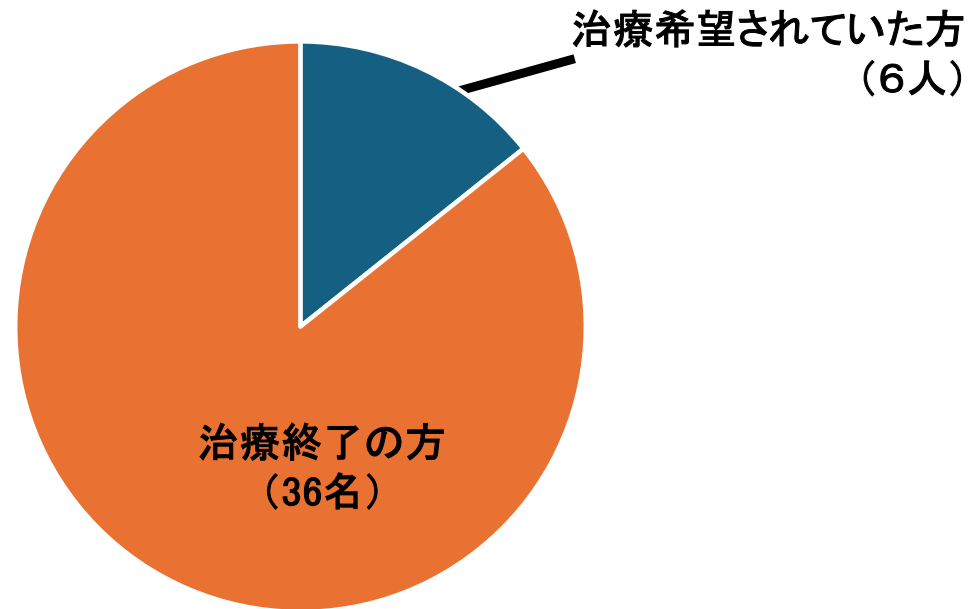
鹿児島市内の様々な
訪問看護ステーションと
連携して診療を行っています。

お住まい

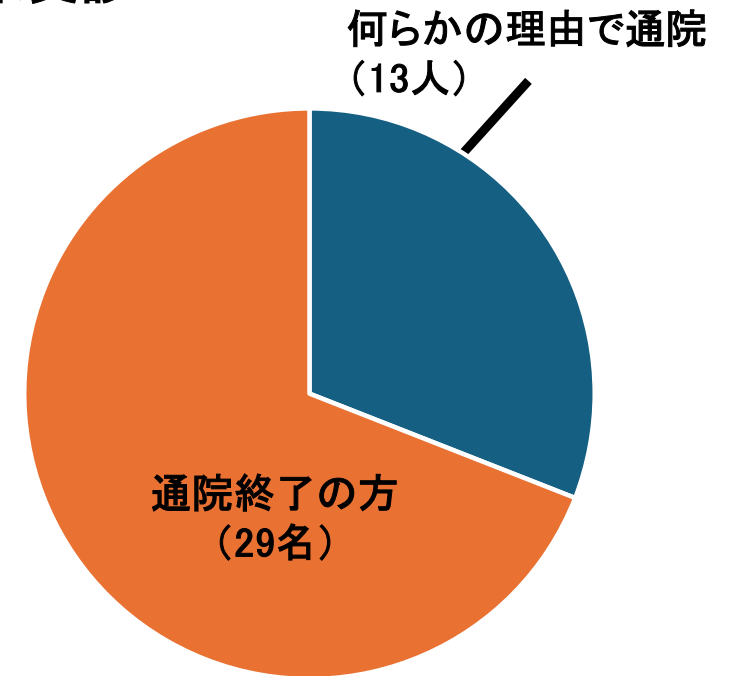


旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内で、介入可能か検討したうえで診療開始します。

治療希望



外来受診



標準的がん治療の適応があり、治療継続される場合、
ご本人・ご家族・治療病院主治医のニーズを確認の上、
治療病院と連携して診療を行う場合もあります。
治療中止していても外来受診希望有れば、
診療情報を提供しつつ連携しています。

何らかの理由で一時期入院し
あとは在宅で過ごされた方
2名

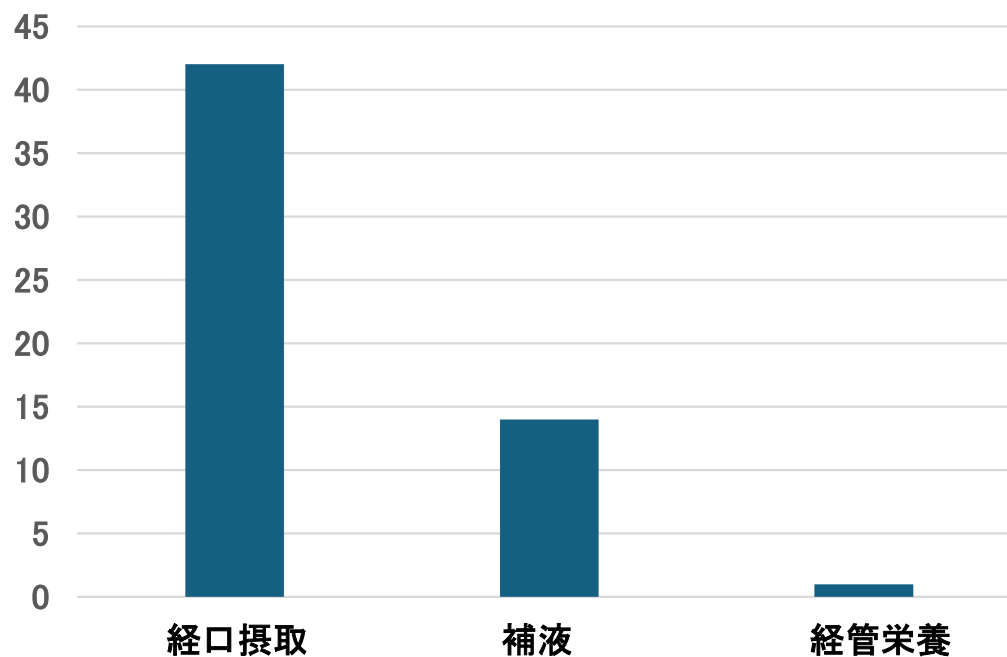
病状が落ち着くまで入院したい、
ご家族のご都合で入院が必要、など、
入院希望あれば後方支援病院と
連携してスムーズに入院できるよう対応します。
退院してこられた場合は、訪問診療再開します。

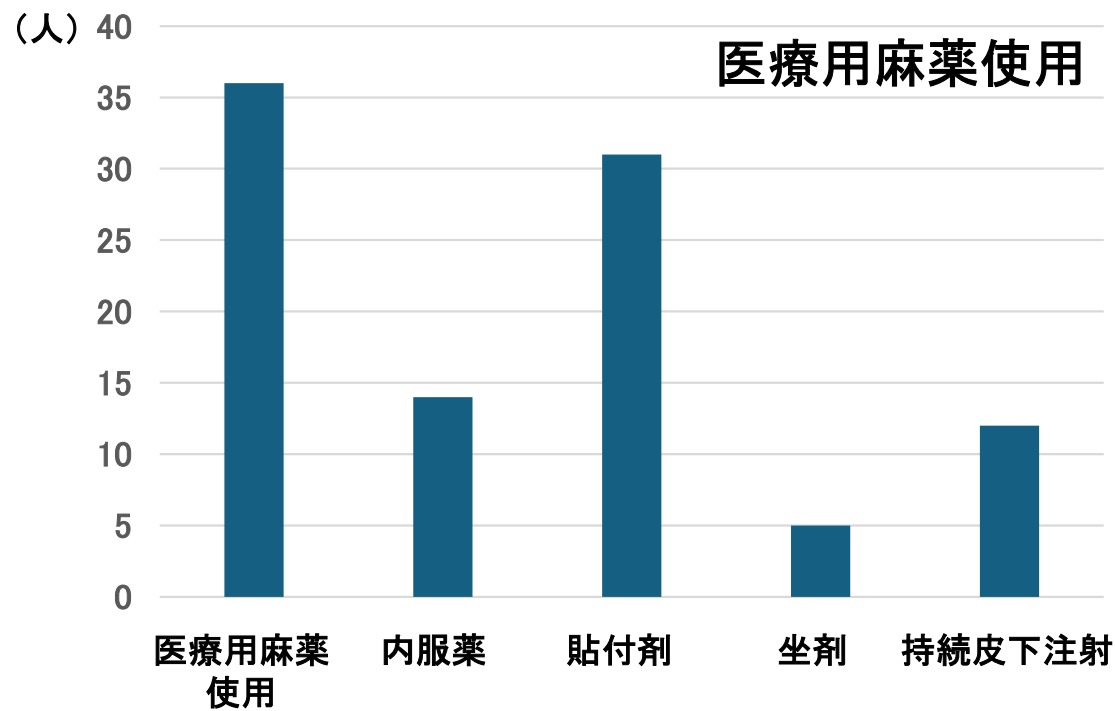
栄養ルート

なるべく何らかの形で経口摂取できるよう
工夫します。

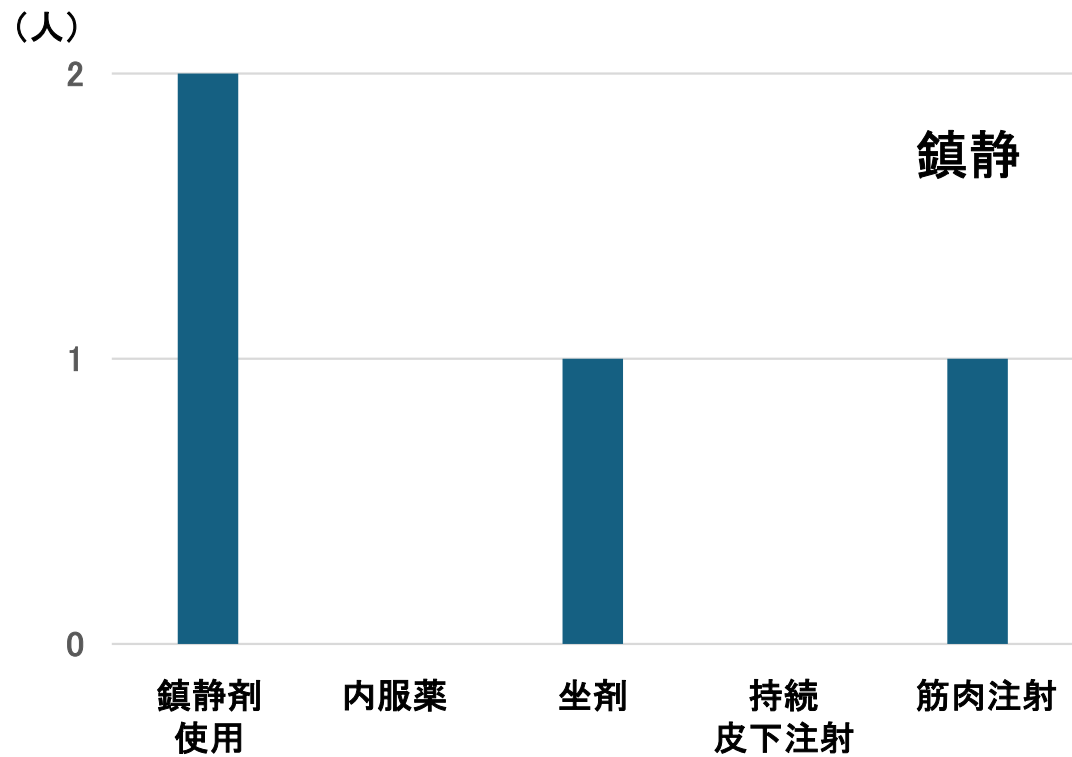
誤嚥のリスクが高い方は、食事の形態の工夫、
口腔ケアブラシに水分を含ませ口の中をぬぐう
といった方法をとっています。

(人)



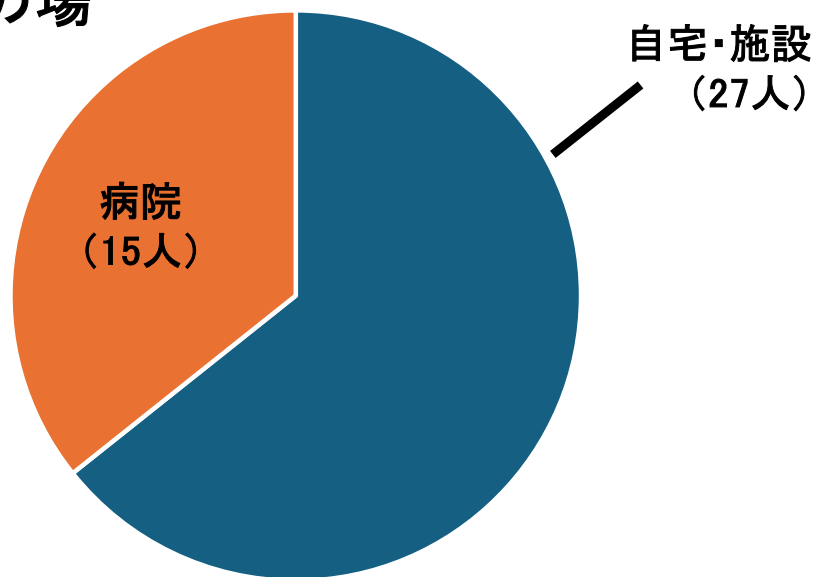


患者さんの状態を拝見し、
患者さん・ご家族と相談しながら
必要に応じて、
医療用麻薬を使用します。

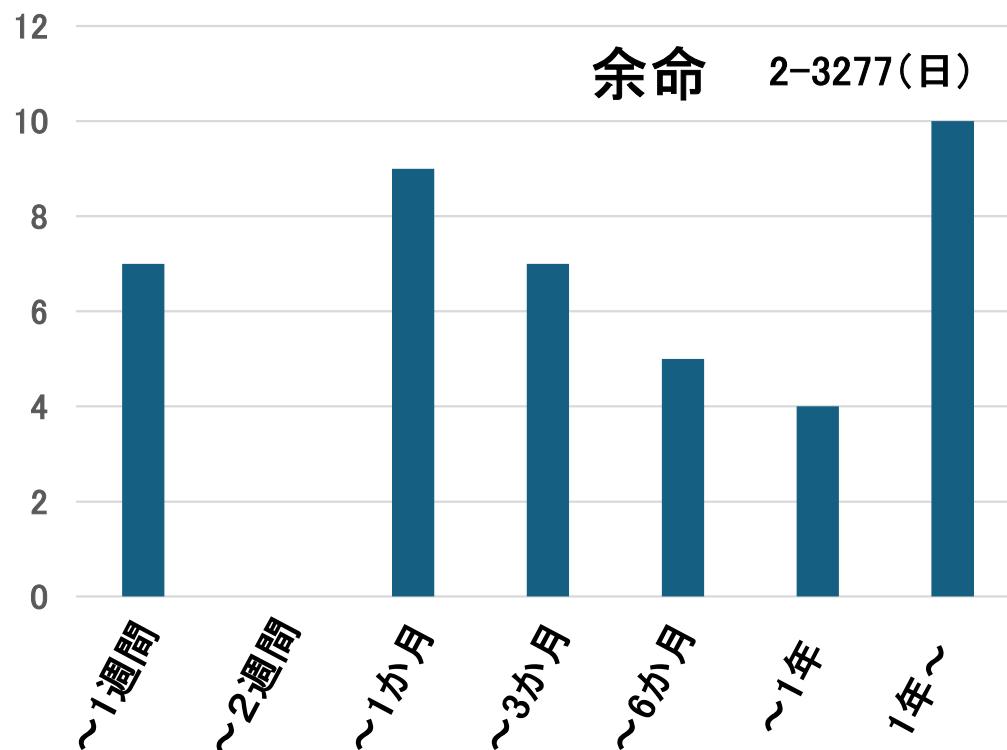


身の置き所ないきつさがあり
眠って過ごされる方が楽な場合も
ご本人・ご家族と相談しながら
お薬を使うことがあります。

看取りの場



(人)



ご自宅で過ごしたいご希望の方は、
治療・ケア・各種サービスの介入・工夫によって
在宅療養をサポートしています。
場合によっては入院の方がよりよく過ごせると
判断される場合もあり、
あらかじめ緩和ケア病棟のある病院の
緩和ケア面接を受けていただき、
必要時は(一時的な入院の場合も)スムーズに
入院できるよう連携を図っています

病状進行のスピードは、
患者さんによって様々です。
患者さんの状態、
患者さんのお気持ちやご家族のお考えを
伺いながら対応します。
(1年以上の余命のあった方は、
非がん疾患で診療を始め途中で
がんが見つかった方々が多いです)